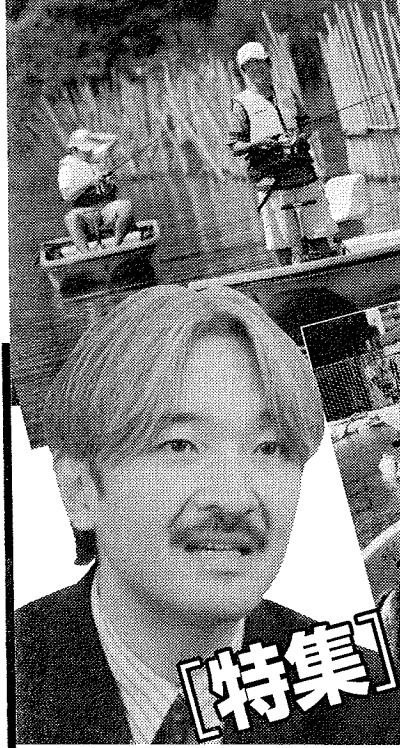




バス擁護団体に担がれた麻生総務相

「秋篠宮さまも巻き込まれた」麻生太郎の「奇怪な」ブラックバス駆除反対運動



特集

8月2日、山梨県の山中湖村で高校生のボーイスカウトの全国大会が開催された。初日の開会式には秋篠宮ご夫妻が列席された。ボーイスカウト日本連盟事務局によれば、

「翌3日には河口湖でブラックバス釣りのプログラムがあり、秋篠宮様はそれを視察され、実際にスカウト達と一緒にバスボートに乗ってバス釣りを体験されるご予定になっていました」このイベントは、日本バスプロ協会(バス釣りのプロの団体)が全面協力し、釣具一式を提供していた。

バス釣り人口はざっと300万人いるといわれている。後述するが、全国の自治体でブラックバスの駆除が盛んになり、釣具業界にとつて逆風が吹いている。今、秋篠宮の参加は、かっこうの宣伝になるはずだった。ところが直前になって視察は中止されたのだ。前出の事務局は説明する。

「当日になって秋篠宮様の方から『バス釣りの視察を変更してほしい』とのご要望があり、別の場所でのスカウト達との懇談に変更しました。理由は、秋篠宮様は魚類学者で、日本魚類学会にも加入されておられますが、その学会が、外来種であるブラックバスの存在に異を唱えていることもあり、そのことにご配慮されたいということでした」

釣具業界の目論見は、あつてなく潰えたわけである。そもそもブラックバス(オオクチバスとコクチバスの2種の総称)は大正14年にアメリカから日本に持ち込まれ、芦ノ湖に放流されたのが最初だが、一部の限られた湖水にしか生息していなかった。ところが、

「70年から80年代にかけてブラックバスを釣るスポーツフィッシングが流行して釣りファンがバスを勝手に持ち出して放流してから全国で爆発的に増えた」と語るのは、神奈川県立「生命の星地球博物館」の瀬能宏学芸員である。

上がっているのだが、そこに待ったをかけたのがバス釣りの関係者である。ここから政界を巻き込んだ論争に発展した。ブラックバス駆除「賛成派」の急先鋒が、全国の湖や川で漁業を営む漁民の連合組織で「全国内水面漁業組合連合会」。会長は桜井新参議院議員。対する「反対派」が、

望があり、別の場所でのスカウト達との懇談に変更しました。理由は、秋篠宮様は魚類学者で、日本魚類学会にも加入されておられますが、その学会が、外来種であるブラックバスの存在に異を唱えていることもあり、そのことにご配慮されたいということでした」

釣具業界の目論見は、あつてなく潰えたわけである。そもそもブラックバス(オオクチバスとコクチバスの2種の総称)は大正14年にアメリカから日本に持ち込まれ、芦ノ湖に放流されたのが最初だが、一部の限られた湖水にしか生息していなかった。ところが、

「70年から80年代にかけてブラックバスを釣るスポーツフィッシングが流行して釣りファンがバスを勝手に持ち出して放流してから全国で爆発的に増えた」と語るのは、神奈川県立「生命の星地球博物館」の瀬能宏学芸員である。

「ブラックバスは魚食性が強く、小さな池の場合、入り込んでしまうと、口に入

主に釣具業者の関係者からなる「日本釣振興会(日釣振)である。日釣振は、組合連合会に対抗するために、3年前に麻生太郎総務相を会長に迎えた。日釣振の理事の一人が麻生氏と懇意だったという。

ブラックバスの駆除に賛成する写真家の秋月若魚氏はこう語る。

「日釣振は、このままではバスが駆除対象になり釣具業界の売上にも響く。そこで行政に影響力のある国会議員に働きかけて、バスの擁護に回ってもらおうと考えたのです。実際に、日釣振やバスプロ協会は、釣り好きの親睦団体である釣魚議員連盟の議員に様々なロビー活動を展開しています。7月中旬には、麻生太郎、綿貫民輔、佐田玄一郎など5人の自民党議員を河口湖で接待し、バス釣りを楽しんでもらっているのです」

るサイズの魚は食害されてしまいます。大きな湖でもブラックバスの生息域にいる魚はかなり食害されてしまっています。琵琶湖でも漁獲していた魚が減ってしまつたことがあります」

被害にあつた在来種は、ワカサギやアユ、タナゴなど。天然記念物に指定されている京都府の深沼池や、

「オオクチバスを特定外来生物に選定することに反対します」と、日釣振の高宮俊諦副会長は反論する。

「オオクチバスを特定外来生物に選定することに反対します」と、日釣振の高宮俊諦副会長は反論する。

「オオクチバスを特定外来生物に選定することに反対します」と、日釣振の高宮俊諦副会長は反論する。

「オオクチバスを特定外来生物に選定することに反対します」と、日釣振の高宮俊諦副会長は反論する。

「オオクチバスを特定外来生物に選定することに反対します」と、日釣振の高宮俊諦副会長は反論する。

国会議員をバス釣り接待

釣具業界では、最盛期3000億円あつた売上が、最近では2000億円にまで減少。それだけにブラックバスの規制は業界にとつてダメージになる。そしてさらに業界が危機感を募らせているのが、今年5月に成立した「特定外来生物被害防止法」である。同法は、海外から持ち込まれた有害な動植物を規制するものだが、来年の施行までに対象となる動植物を選定することになる。当然、ブラックバスも対象にすべきた、という声も、環境保護団体や漁業関係者からも

ラムサール条約に登録されている宮城県伊豆沼では、在来種の激減が報告されている。そのため、水産庁は規制に乗り出した。

「ブラックバスの生息数を減らすように各県に指導し、網などでバス類を引き揚げ、処分していただきます」(水産庁沿岸合課内水面調査班)

水産庁は、平成4年の通達によって、沖縄県を除く46都道府県でブラックバスの放流を禁じている。

野本式 昔ながらの手づくり卵油

ぽん酢卵油

もっと生き生き。

9,800円(税込) (320粒) 送料350円

ご注文は 0120-17-3788

年中無休!午前9時~午後9時迄

手づくり自然食友の会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-10-7